

のらボーイ&のらガールの食農教育プロジェクト ～No Food 農 Life～

教育・研究

課外活動

ボランティア

地域交流

代表者：農学部 地域環境科学科 3年 篠田 優香

連携先

阿見町役場、JA茨城かすみ、阿見町そば打ち同好会、阿見小学校、阿見第一小学校、阿見第二小学校、君原小学校、実穀小学校舟島小学校、本郷小学校、吉原小学校

顧問教員

小松崎 将一（農学部 教授）

参加者

武石 直哉（農学部生物生産科学科4年）
八塚 拓（農学部生物生産科学科4年）
若井 誠幸（農学部生物生産科学科4年）
小川 佳祐（農学部資源生物科学科4年）
栗原 拓海（農学部資源生物科学科4年）
酒井 健伍（農学部資源生物科学科4年）
山口 優衣（農学部資源生物科学科4年）
高梨 香苗（農学部資源生物科学科4年）
平野 明則（農学部資源生物科学科4年）
大須賀麻希（農学部地域環境科学科4年）
大野 莉沙（農学部地域環境科学科4年）
片寄 彩美（農学部地域環境科学科4年）
神田 瑞穂（農学部地域環境科学科4年）
杉本 麻美（農学部地域環境科学科4年）
藤岡みのり（農学部地域環境科学科4年）
星野 佑太（農学部地域環境科学科4年）
松本瑛実香（農学部地域環境科学科4年）
三輪 大樹（農学部地域環境科学科4年）
石川 美優（農学部生物生産科学科3年）
山崎 恵理（農学部生物生産科学科3年）
中根麻冴美（農学部資源生物科学科3年）

岩崎 明（農学部地域環境科学科3年）
太田 直樹（農学部地域環境科学科3年）
勝村 遥（農学部地域環境科学科3年）
木納 勇佑（農学部地域環境科学科3年）
篠田 優香（農学部地域環境科学科3年）
戸野あすか（農学部地域環境科学科3年）
東 麻依（農学部地域環境科学科3年）
吉田 健人（農学部地域環境科学科3年）
和賀 智紀（農学部地域環境科学科3年）
青木 拓矢（農学部生物生産科学科2年）
大澤 夏樹（農学部生物生産科学科2年）
野口 真希（農学部生物生産科学科2年）
小野間智秋（農学部資源生物科学科2年）
鈴木早百合（農学部資源生物科学科2年）
松嶋 優李（農学部資源生物科学科2年）
澁谷 貴史（農学部地域環境科学科2年）
中津 祐也（農学部地域環境科学科2年）
生田目慶都（農学部地域環境科学科2年）
曲山 康平（農学部地域環境科学科2年）
谷口 裕亮（農学部地域環境科学科2年）

プロジェクトの概要

○背景

茨城県は北海道について農業産出額全国二位の農業県であるにも関わらず、県民の農業や食への意識はそれについてきていない。食とは人間が生きていくための源であり、なおかつそれを支える農業も私たちの生活に欠かせないものである。そのため、幼い頃に食や農業に触れる機会を設けることは健康で豊かな人間を育てるうえで重要だと考えられる。

○目的

私たちは地域の方々に、農業や食に触れる機会を提供し、食や農業に対する興味・関心を喚起させることを目的として以下に示す主に三つの活動を食農教育活動および現状の調査として行なった。

○内容

(1) 遊休農地を利用した食農教育活動

月	活動内容
8月	畑整備／播種イベント
9月	土寄せ・除草作業
10月	除草作業／収穫イベント
11月	脱穀・唐箕
12月	製粉／そば打ちイベント

昨年度に引き続き遊休農地を利用したそば栽培を実施しそれに関わるイベントを地域の親子を対象に開催した。今年度は昨年度よりも定期的な管理を徹底することでより質の高いそば栽培を目指し、食育イベントも子供たちに積極的に取り組んでもらえるよう工夫を施し、内容をより充実させた。

8月には第一回のイベントである、そば播種イベントを開催し、そばやその他の野菜に関するクイズ・農園ツアー・野菜を使ったスタンプラリーを行なった。



播種イベントでの食育クイズ



野菜を使ったスタンプラリー

10月には収穫イベント、12月にはそば打ちイベントを開催した。参加者はそれぞれ5組・3組となっており、収穫イベントでは地元のそば農家の方から昔ながらの脱穀機や唐箕機をお借りし参加した子供たちに体験してもらった。また、そば打ちイベントでは地元のそば打ち同好会の方々を講師としてお迎えし、指導を受けながら参加者とともにそば打ちに取り組んだ。



収穫イベントの様子



脱穀機・唐箕機体験



そば打ちイベントの様子

また、各イベントにおける食育クイズやゲームには手作りのアイテムを用いて、子供に実際に手を動かしてもらい能動的に野菜や農業について考えてもらう工夫をした。



手作りの食育クイズアイテム

(2) 小学校農園ボランティア

月	活動内容	
5月	落花生授業・種まき	↓ 農園管理
7月	落花生マルチはがし	
9月	食育授業@吉原小学校 大根種まき	
10月	落花生授業・収穫 ポッチ作り	
11月	落花生脱粒	
12月	ヤーコン収穫 ヤーコン料理教室	
1月	給食委員会参加	

昨年に引き続き、JA茨城かすみの方が取り組まれている阿見町内の全8小学校で行なわれている食育事業に、農園管理ボランティア及びアシスタントとして参加した。活動は4月から始まっており、落花生・ヤーコン・大根の播種・収穫など小学校の授業として行なわれる作業に参加した。また、5月～11月にかけて夏季には一週間に一回のペース、秋季には2週間に一度のペースで小学校ごとに班に分かれて定期的な農園管理・除草作業に取り組んだ。



定期的な小学校農園管理



落花生種まき授業



マルチはがし作業



落花生ポッチ作り



ヤーコン収穫

また、今年度は各小学校との関係の維持・向上を図るために、参加メンバーが農園管理作業の内容や感想を記載する作業記録ノートを各小学校に設置した。このノートにより小学校の先生方との情報共有・意見交換を行った。



情報共有のためのノート

さらに今年度は、農園管理だけではなく教室で行なわれる食育授業や地元名産のヤーコンを使った親子での料理教室等にも参加した。

特に9月に吉原小学校で行なわれた食育授業では学生が講師として自分たちで内容を考えた授業を行なった。さらに阿見小学校での給食委員会による小学校でのイベントにも準備の段階から参加し、小学生との交流を図った。



調理実習の様子



食育授業『給食のひみつ』

(3) 阿見町に関する現状調査

月	活動内容
7月	認定農家へアンケート実施
11月	鍬耕祭・茨苑祭・青空市 オーガニックフェスタへの参加
12月	アンケート集計

阿見町内の認定農業者の方々を対象に遊休農地及び廃棄野菜における現状についてのアンケート調査を行なった。また、鍬耕祭・茨苑祭に参加し、来校者や学生を中心とした非農業者を対象にヤーコンの認知度や体験して

みたい作業など、農業に対する意識調査を行った。



茨苑祭でのアンケート調査

また、学園祭・青空市・オーガニックフェスタではポスター展示を行い、来場者に対して本活動の認知度を向上させるための広報活動に取り組んだ。



青空市への参加



オーガニックフェスタの様子

プロジェクトの成果報告

○成果

(1) 遊休農地を利用した食農教育活動

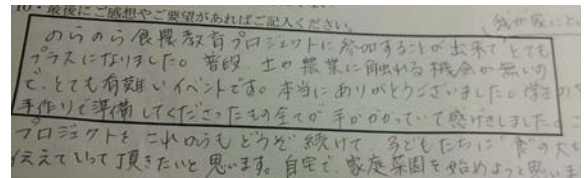
定期的な農園管理の徹底により、年度より質の高いそば栽培に成功した。また工夫を凝らした食育クイズやゲームにより子供たちの積極的な参加を促すことができた。また、共同でイベントを行なうことで地元のそば農家の方・そば打ち同好会の方々との関係の維持・向上に成功した。

*外部からの評価

(参加者へのアンケートより)

- ・子供が食卓の野菜を見て豆知識を話してくれるようになった。
- ・土や農業に触れる機会はほんとに貴重なものだと感じた。
- ・自宅で家庭菜園を始めようと思っている。

上記のような意見をいただくことができ、参加者の食・農業への興味や関心を喚起できたと考えられる。



参加者からのコメント

また、そば打ちイベントでは昨年同様、日本農業新聞の方に取材していただき、掲載された。これにより本活動のさらなる周知が期待できる。



日本農業新聞(平成26年12月21日9面)に掲載された記事

(2) 小学校農園ボランティア

前述した作業管理ノートにより、昨年度よりも各小学校やJA職員の方との関係の向上に成功した。また小学校の先生方だけでなく阿見町の栄養管理教諭の方とも連携を図ることで、阿見町内小学校で行なわれている食育事業にさまざまな形で参加することができた。

*外部からの評価

(小学校教職員へのアンケートより)

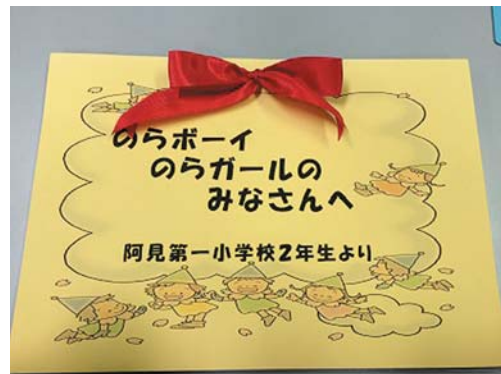
- ・認知度 99% (昨年度20%)
- ・圃場管理状態が昨年より良い 98%
- ・児童に変化が見られた。

食べ物の好き嫌いが減った。

農業の大変さ・喜びを実感することで感謝の心が育った。

(JA実務担当者より)

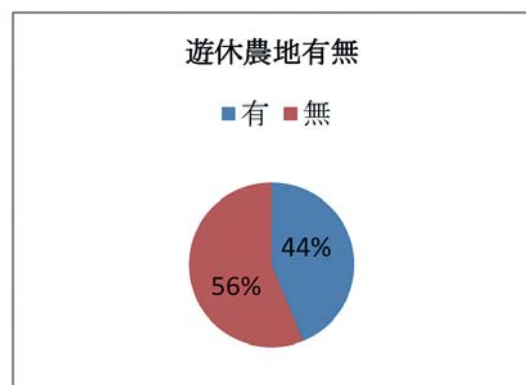
- ・食育推進事業は実務担当者一人では困難学生が管理作業に携わることは町の食育事業を進めるうえで大きな意義がある。



小学校からのお礼のメッセージ

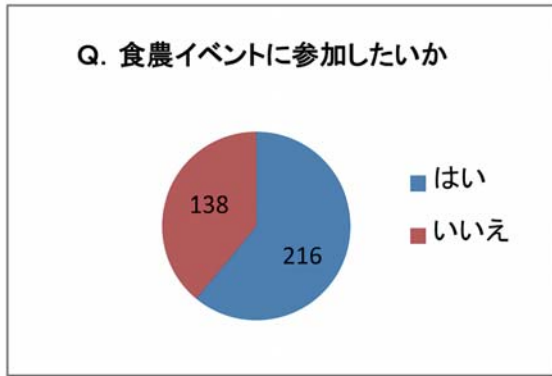
(3) 阿見町に関する現状調査

阿見町認定農業者へのアンケートから、16戸中7戸の農家が人手不足・土地生産性・農道の未整備などの理由により遊休農地を所有していることが分かった。

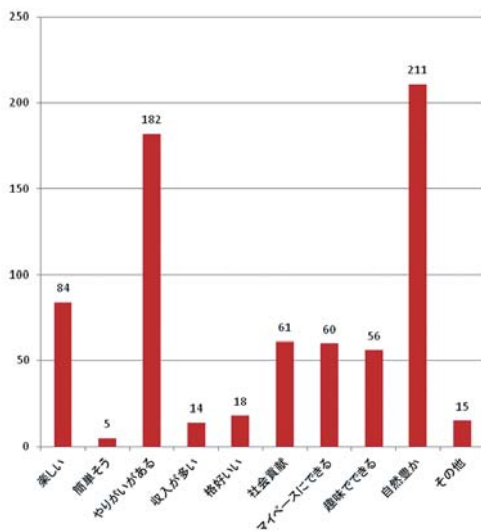


遊休農地の有無アンケート結果

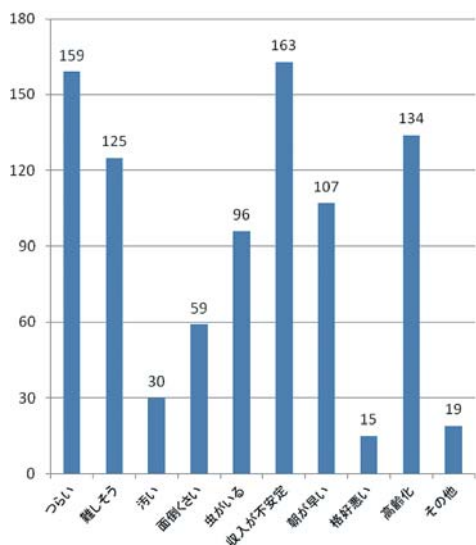
また非農業従事者への農業に対する意識についてのアンケートからは、農業に対しマイナスイメージをより多く持つことが分かった。プラスイメージでは「やりがいがある」「自然豊か」が多く、マイナスイメージでは「つらい」「収入が不安定」が多かった。マイナスイメージが強い一方で、食育イベントへの参加意欲は高く、育ててみたい作物では「サツマイモ」が多いなど来年度に活かせるような情報の収集に成功した。



食育イベントへのアンケート結果



農業に対するプラスイメージ



農業に対するマイナスイメージ

また鍬耕祭に来てくださった、遊休農地を持つ地元農家の方に声をかけていただき来年度へ向けて連携していただけることが決まった。オーガニックフェスタにおいても来場者の方に話を聞いていただいたり、他団体から刺激を受けたりすることができた。このように学園祭や地域の行事に参加することで本活動の認知度を拡大し、新たな連携先の開拓に成功することができた。



新しい連携先の方との顔合わせ

○反省・課題

メンバーの中で活動への参加や仕事の負担が偏ってしまった。また各活動が独立してしまいその連携が浅く、情報共有や意思疎通がうまく図れなかった。さらに今年度は活動の拡大ではなく内容の充実にとどまった。

○今後の展望

今年度のアンケート結果を活かし、参加者のニーズに合ったより参加しやすいイベントの実施を計画している。またメンバー間や活動間に隔たりのない、全体で取り組むイベントを計画している。さらに新たな連携先として地元農家の方と協力することで、今まで以上に地域に根差した地域主体の活動の実施を計画している。